

## 平成23年度カモシカ保護管理検討委員会

日 時 平成23年 8 月24日（水） 午前10～

場 所 岩手県水産会館 5階 大会議室

## 平成 23 年度カモシカ保護管理検討委員会会議録

平成 23 年 8 月 24 日開催

- 【事務局】 1 開会
- 【事務局】 2 あいさつ
- 【事務局】 3 委員紹介
- 【事務局】 「4 議題(1)資料により説明」
- 【三浦委員長】 平成 22 年度の取り組みと、これまでの保護管理の総括について報告がありましたけれども、御意見等ありましたらどうぞ。
- 【鈴木委員】 6 ページの農業被害額、これが 42.1、これ ha ですよね、8 ページはこれ 421a ですよね、確か 1ha は 100a ですよね。どちらが正しいのでしょうか。421a だとすると 4.21ha になると思うのですが。
- 【事務局】 失礼いたしました。本文の方が間違っておりました、4.21ha となります。
- 【鈴木委員】 そうすると本文の表全部が訂正でしょうか。
- 【事務局】 本文の単位は少し時間をいただいて確認します。
- 【鈴木委員】 そうすると本文の表現も変わってきますね。「面積で微増した」とありますが、激減だと思います。
- 【事務局】 確認します。
- 【千葉委員】 4 市町村分が入っていない、ということは 4 市町村分が入ると平成 21 年度と同じような金額になると思われるのか、思われないのかお願いします。また、資料 2 の 15 番で、陸前高田の米崎のカモシカからリンゴが胃の内容物として見つかっているということですが、個体数調整を実施したのが 4 月 13 日です。4 月 13 日にたぶん捕まえたということだと思うのですが。
- 【事務局】 これは、実ではなくて若芽だったと思いますが、青井先生にお聞きしたいのですが。
- 【青井委員】 ちょっと記憶が無いのですが、確かこれはいわゆる廃果、それが落ちていたもの、その果肉だったと思います。
- 【千葉委員】 解りました。それでは 4 市町村の入ったとしたらばこの数字はどうなったのでしょうか。
- 【農業振興課】 昨年度の被害金額をみますと、藤沢町、大船渡市、陸前高田市、大槌町を併せて 400 万くらいの被害金額がありますので、今年の被害金額に足していただくと、昨年度を下回るような予想になります。
- 【千葉委員】 少なくとも 2 分の 1 以下とかというような数字にはなりませんけれども、逆に考えれば少なくとも昨年度もおそらく 21 年度と同じ様な被害があったという事になりますね。
- 【三浦委員】 その他何かありますか。昨年捕獲の要請があったという陸前高田と住田町のその後の状況はいかがでしょうか。
- 【水野委員代理】 被害の状況については、まだ集計はしていませんけれども全地域から被害報告は出てきています。昨年度見ていただいた 2 地域については同じような状況。シカ網のメンテナンスというものは続けておりましたけれども、新たな手段というものについてはまだ進めていないという状況でございます。
- 【小山委員代理】 陸前高田市ですけれども、大震災があって担当者自体が被災しまして、後任

## 平成 23 年度カモシカ保護管理検討委員会会議録

平成 23 年 8 月 24 日開催

で私が一関市から来ているのですが、被害調査も今現在も実施できない状況です。今年度の個体数調整はやらないというふうに聞いております。そういう状況です。

- 【三浦委員長】 その他ありませんか。
- 【事務局】 先ほどの被害額の関係ですが、事務局の方から追加で説明いたします。
- 【農業振興課】 平成 22 年度の被害面積ですが、4.2ha でした。昨年度との比較で申しますと、昨年度の 4 市町分を除いたデータは、被害面積が 2.04ha、被害金額が 711 万 2 千円という状況になっています。
- 【事務局】 本文の表現は変わりますので後程差し替えて送らせていただきます。ただこういう比較にするかになりますので、4 市町分抜いてだと面積は増えておりますが金額でいくと 700 万から 400 万ということになりますので、その辺をふまえた表現に訂正が必要になるかと思えます。
- 【三浦委員長】 よろしいですか。それでは平成 22 年度の取り組みについてはこれで占めたいと思えます。次に平成 23 年度の取り組みについて事務局からお願いします。
- 【事務局】 「4 議題（2）資料により説明」
- 【柏原委員代理】 2 点説明いただきたいのですが、生息状況調査、これは 23 年度の予算ということでしょうか。
- 【事務局】 24 年度予算の要求ということになります。
- 【柏原委員代理】 そうするとですね、前回 22 年度に調査を行って、一部できたところとできないところがあったと。そして次は 24 年度ということですね、そこはどのようなのでしょうか。
- 【事務局】 時期ということでしょうか。
- 【柏原委員代理】 要は前のスケジュールは 22 年度に調査をやって翌年度、今回は 24 年度に調査をやって翌年度からですね。前のスピードよりも 1 年間短くなるかな、と。
- 【事務局】 今年予算要求して、24 年度当初に予算が付くとすれば、3 月には間に合わないのはしょうがないので、できるだけ合せた時期で 4 月ぐらいということになるかと思えますが、たとえば葉の茂り具合や雪の状態なども踏まえなければならぬので、予算が確保できた段階で、受託者とどういった時期であればできるかということ相談したい、と。そこで今までやってきた時期との単純な比較ができないようであれば、そこを踏まえて次の計画でその生息調査結果をどのようにとらえるか、ということ計画の中で考えていかなければならないと考えておりました。
- 【千葉委員】 計画を策定するためには、個体数を出さなければならないと思うのですがそこはいいのでしょうか。
- 【事務局】 カモシカの場合には、個体数という扱いではなく、生息密度で考えておりました。生息状況調査が出来なかったので次の計画が立てられない状況にあり

## 平成 23 年度カモシカ保護管理検討委員会会議録

平成 23 年 8 月 24 日開催

ますので、生息状況調査をして次の計画を立てていくということになります。

【千葉委員】 ですから、次の生息調査は 24 年度の予算ですよ。24 年度の予算でやってその結果が出てから計画を立てるということは、25 年度に計画をたてて翌年から施行ということになるのではないですか。

【事務局】 まだ予算が取れた状況ではありませんからスケジュールはこれからですが、見込みとしては、予算が取れた状況でできるだけ早い時期に生息状況調査をやりたい。それまでの間に生息状況に関わらない部分を早めに詰めておいて、生息密度がわかった段階でそこを埋めるという形にしたいと思います。

クマとシカという計画と違いまして、カモシカの場合には、生息密度によって捕獲目標や捕獲上限が決まるということではありません。たとえばもしも予算が取れなかったとしても、生涯学習文化課でやっている密度調査を利用するという考えも一つあるかと思いますが、計画の策定には大きく影響はしないものと考えます。

【事務局】 スケジュールの確認ですが、今、年度で話しているのも、すごく期間が空くとか空かないといった話になっておりますが、通常ですと、23 年の 3 月に調査を実施して、その結果をもとに、23 年度に計画を作る予定でした。それが 1 年間延長することによって 24 年の 3 月に調査をして 24 年度に計画を作るというスケジュールが単純に 1 年間延期したものなのですが、その 24 年 3 月にやるべきものを 24 年度の予算の措置ということでお話ししましたが、24 年の 4 月なり 5 月なり、準備でき次第やれる可能な時期にやって、3 月にやるより 1 か月程度の遅れでやる、というようなタイムラグで調査を進めるということが出来れば、通常の予定よりも 1 か月程度の遅れで、スケジュール的には 1 年間の繰り延べ、ということをやろうと思っています。

【三浦委員長】 よろしいですか。  
忌避剤や防除策などについて市町村などで効果測定はやっているのでしょうか。

【事務局】 現時点で効果についてはまだ調べが出来ていません。ただ、来年、そういったところで情報が集められれば、アンケート的になるかもしれませんが、来年度検討委員会の資料として、意見をまとめて対策として広めていきたいと思えます。

【三浦委員長】 この内容で被害が止まらないことを考慮しながら、捕獲という選択肢を出していくというのがこの検討会の役割だと思います。  
また若齢造林地におけるカモシカの被害があるといわれる場所の多くでは、カモシカが棲んでいるかどうかということが私の懸念としてあります。シカの方が主要な加害種となっているのではないかということ、それらを食い止められるかということも非常に気がかりであります。

【事務局】 今回の計画の 10 ページに、市町村実施計画の承認にあたっての基本的考え方が載っていますが、次の計画を立てるときに、たとえばここに忌避剤を使っているのか、なぜ効果が出ないのか、といったところを検証の判断材料とする

## 平成 23 年度カモシカ保護管理検討委員会会議録

平成 23 年 8 月 24 日開催

こともありなのかなと思います。やっぱり、カモシカの被害かシカの被害かというところは常に検証に当たって議題になるところですので、そこを客観的に確認取れているか取れていないか、というところは本当であれば判断材料とすべきところだと思います。実際そういう調査方法を市町村が出来るかどうかというところも踏まえてたてていかなければならないので、参考にさせていただきたいと思います。

- 【三浦委員長】 ほかに要望等ありませんか。
- 【堀野委員】 個体数調整、という言葉がいいかどうかということがあります。加害個体の捕獲なので、「捕獲」という言葉がいいのではないかと思います。
- 【事務局】 どういった言葉を使うかということも計画の上で大事だと思いますので、実態に沿った形にしていきたいと思います。
- 【三浦委員長】 マニュアルの中で個体数調整という言葉が使われているので、それに沿っているのだと思います。
- 【事務局】 岩手県の計画を立てる際に、環境省で示している種別の技術マニュアルというものを参考にしておりますので、その影響で使われている言葉だと思いますが、県独自の計画ですので、一番合う言葉をとっています。
- 【三浦委員長】 是非第 3 次の計画ではお願いします。  
それでは、平成 23 年度の取り組みはこのとおりとします。  
その他ありませんか。
- 【事務局】 その他としまして、生涯学習文化課の調査結果について報告いただきたいと思います。
- 【中村委員】 資料 3 に基づき説明。
- 【三浦委員長】 その他何かございますか。
- 【柏原委員代理】 カモシカのことではないのですが、ニホンジカの分布も確認されているということですか。
- 【中村委員】 8 ページですが、アンケート調査による分布メッシュということで、カモシカと同時にニホンジカの分布が確認されております。
- 【三浦委員長】 1 点、カモシカの保護管理対策については、地域指定という予定であったわけですが、四国九州の保護地域設定が進まないという中で、特定計画で都道府県ごとにそれぞれの計画を作れば捕獲可能といったような経緯がありますが、現在は地域を問わず種指定ということですが、地域指定の保護地域も残っていて、種指定と地域指定とが同時にある、ということで、これから先この状況がこのまま継続されるということで、林野庁、環境省と文化庁との間での新 3 庁合意に向けてとりくまれる、というように聞いています。  
その他何かありませんか。  
よろしければ今年度の検討委員会はこれで終わりたいと思います。
- 11:00 終了